

# “光コラボレーションモデル” ～ 新たな価値創造への貢献 ～



2014年6月27日

日本社会は少子高齢化や環境エネルギー問題等様々な課題を抱えつつ、ICT利活用による解決は遅れ気味

NTT東西は世界最高水準の光アクセスインフラを構築

一方で光サービスの伸びは鈍化、固定・移動融合サービスは未成熟

- NTT東西は光アクセスの「サービス卸」をスタート
- 多様なプレイヤーの新たな価値創造をお手伝いすることでICT市場を活性化
- 更には社会課題の解決や日本の産業競争力強化へ貢献

- NTT東西による光アクセスの「サービス卸」
  - 光アクセスの本格的「サービス卸」は**世界初**
  - 幅広い分野の多様なプレイヤーに**公平**に提供
  - 現行の法制度下で提供可能  
(従来の接続制度下における設備等の提供も継続)
- NTT東西は「**バリューパートナー** (Value Added Enabler)」  
として多様なプレイヤーによる新たなサービス創出を  
下支え (ビジネスモデルの変革)



「**光コラボレーションモデル**」

## 従来

NTT東西が、直接、  
光アクセスサービスを  
エンドユーザに提供

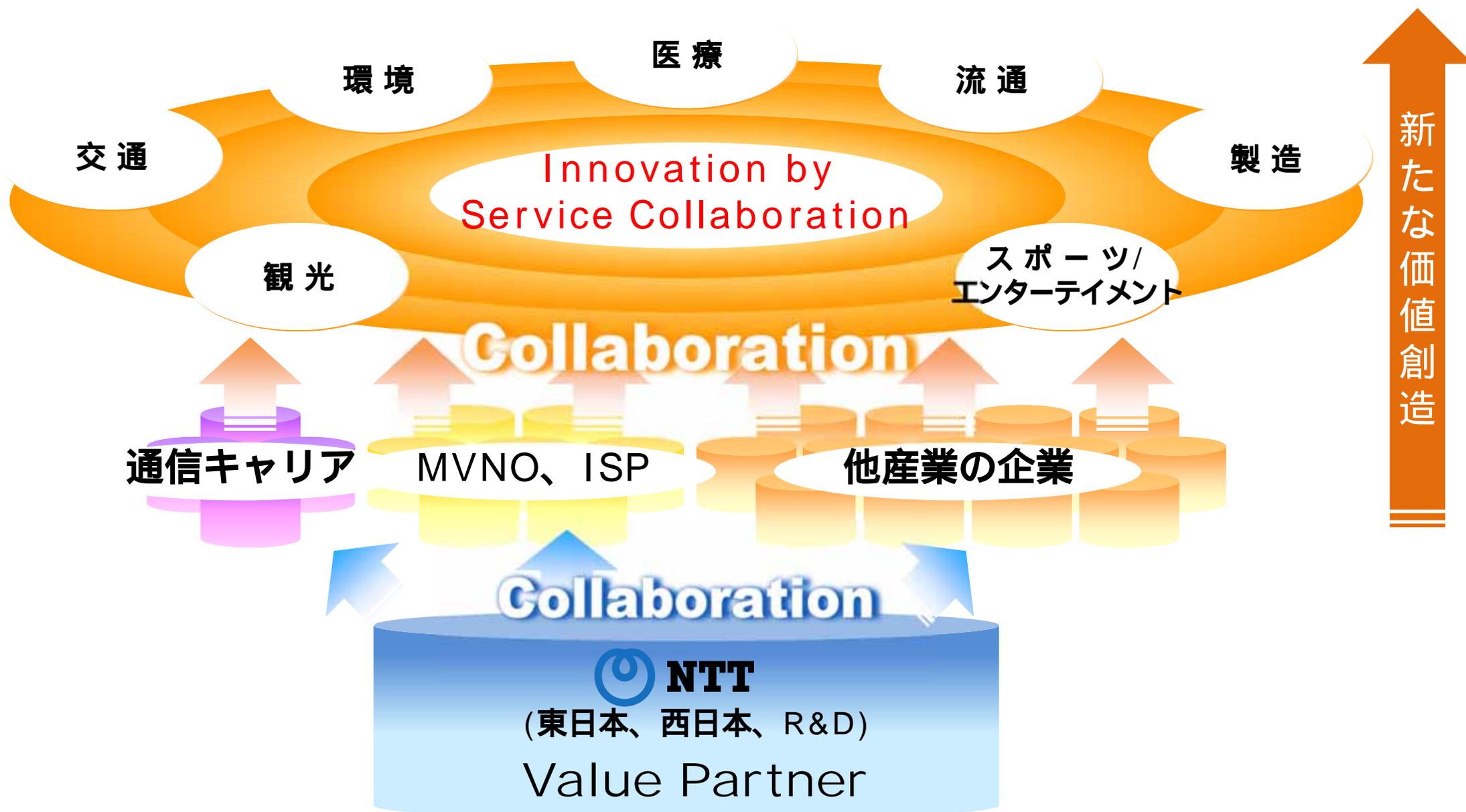
**B**2C

## 「光コラボレーションモデル」

多様なプレイヤーが、  
NTT東西から光アクセスの  
「サービス卸」を受け、  
自社の強みと組み合わせ、  
自社サービスとして  
エンドユーザに提供

**B**2**B**2C

# コラボレーションによる価値創造



# 「光コラボレーションモデル」の活用イメージ (健康・医療分野)



- **通信事業者** : 通信キャリア、MVNO、ISPの皆様が固定・移動連携サービスを提供
- **他産業プレイヤー** : 医療機関、家電メーカー、ハウスメーカー等、幅広い産業分野の皆様が連携し、健康をサポートするサービスをワンストップで提供



## 健康のトータルサポートサービス

通信キャリア、  
MVNO、ISP



医療機関



家電  
メーカー



ハウス  
メーカー



スポーツ  
ジム



外食・中食  
企業

光アクセス「サービス卸」



**NTT**

(東日本、西日本、R&D)

## サービス提供プレイヤーのメリット

- **固定と無線を意識しない通信環境により、多様な産業のリアルビジネスと通信を融合させた新サービスを実現可能に**

## お客さま(エンドユーザ)のメリット

- **多様なプレイヤーが提供する価値創造を通じた革新的なサービスを選択可能に**

# 今後のスケジュール



2014年度 第1四半期



5月13日  
「光コラボレーション  
モデル」発表

第2四半期



NTT東西が  
概要(提供条件等)を  
提示

第3四半期～

提供開始

事業者様向け事前お問い合わせ窓口

NTT東日本	ビジネス開発本部	03-5359-7159	<a href="mailto:hikari_collabo@ml.east.ntt.co.jp">hikari_collabo@ml.east.ntt.co.jp</a>
NTT西日本	ビジネスデザイン部	06-4793-5771	<a href="mailto:hikari_collabo@ml.hq.west.ntt.co.jp">hikari_collabo@ml.hq.west.ntt.co.jp</a>



**N**ext Value Partner

for

**T**ransformation

*of Business models and Lifestyle*

by

**T**rusted Solutions

*of Global, Secure, End-to-end,  
and Full-line ICT services*

# 別添 光コラボレーションモデル(サービス卸) 提供条件概要

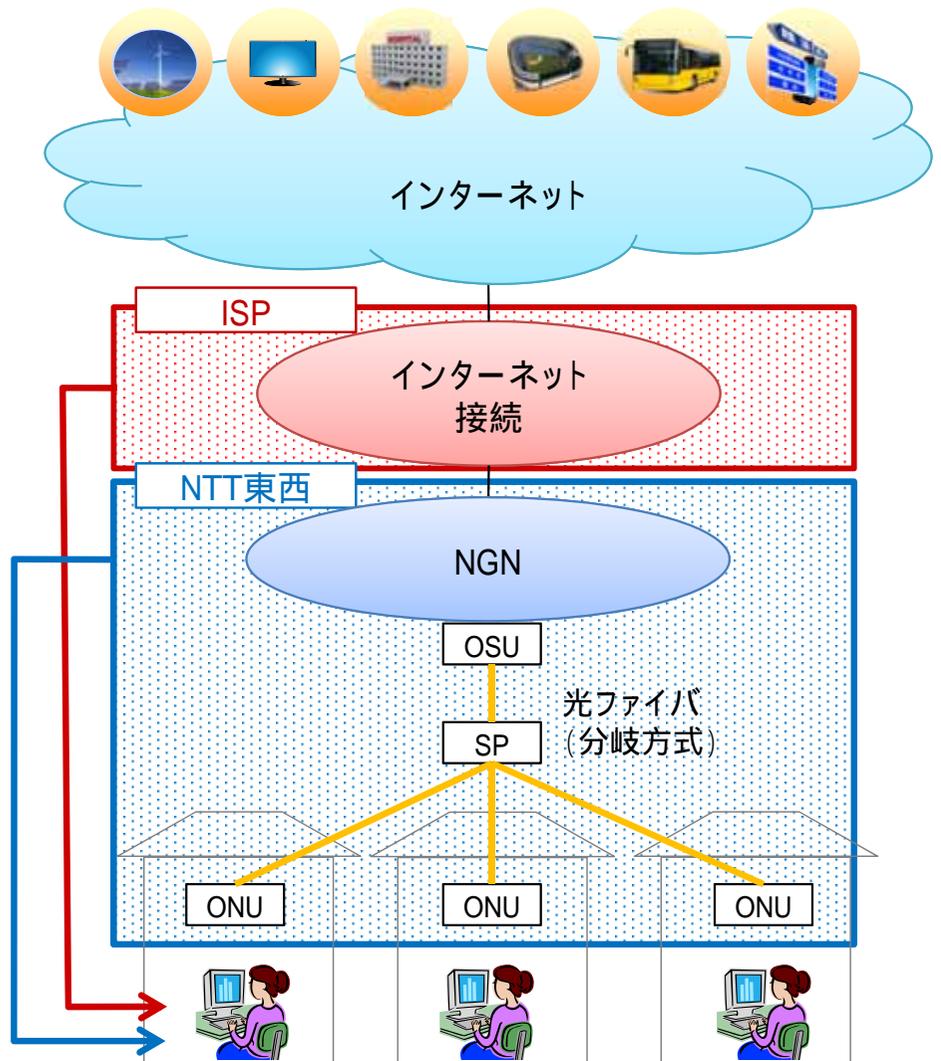
光コラボレーションモデル(サービス卸)の提供条件について、現時点での検討の方向性は以下のとおりです。今後の検討によっては、変更となる場合があります。

項目	検討の方向性
提供内容	<ul style="list-style-type: none"><li>• フレッツ光(ベストエフォートのインターネットアクセスサービス)</li><li>• フレッツ光のサービス提供形態やネットワーク設備形態を変更せずに、提供先をエンドユーザから卸先事業者へ変えて提供するもの</li><li>• 提供品目は、フレッツ光 ファミリー / マンション等(NTT東日本が7月1日より提供予定の1Gサービス含む)</li><li>• オプションサービス(ひかり電話等)については、卸先事業者の要望に応じて検討</li></ul>
提供単位	<ul style="list-style-type: none"><li>• フレッツ光の契約単位と同じ、1回線単位</li></ul>
提供エリア	<ul style="list-style-type: none"><li>• フレッツ光のサービス提供エリア</li></ul>
卸料金	<ul style="list-style-type: none"><li>• 卸料金については検討中</li><li>• 利用形態が同じならば卸料金も同等水準を適用し、公平性を確保</li></ul>
提供する業務	<ul style="list-style-type: none"><li>• 現行のフレッツ光で提供している設備(ユーザ宅内のONU・HGW～光ファイバ～NGN)の保守運用、故障修理等については、引き続きNTT東西が実施</li><li>• 光回線の開通等の工事についても、引き続きNTT東西が実施し、工事料を卸先事業者へ請求</li><li>• お客様からの申し込みや、問い合わせ、故障受付等のエンドユーザとの窓口業務や、卸先事業者のサービスに係る端末機器等の保守サポート等については、原則、卸先事業者が実施</li><li>• 卸先事業者の要望に応じて、卸先事業者が行う業務の一部を、NTT東西が受託することも想定(その業務見合いは、卸料金には含まず、受託料として別途請求)</li></ul>
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"><li>• 卸先事業者に共通して適用する業務フロー等の基本的な提供条件について、今夏に、卸先事業者(卸の利用を検討している事業者も含む)へ提示し、その後、秘密保持契約(NDA)を締結した上で、別途、卸料金や工事料等について提示</li><li>• さらに、システム連携等についての協議を行い、卸先事業者との間で準備が整い次第、提供を開始</li></ul>

# 参考 従来のフレッツ光と「光コラボレーションモデル」の提供形態

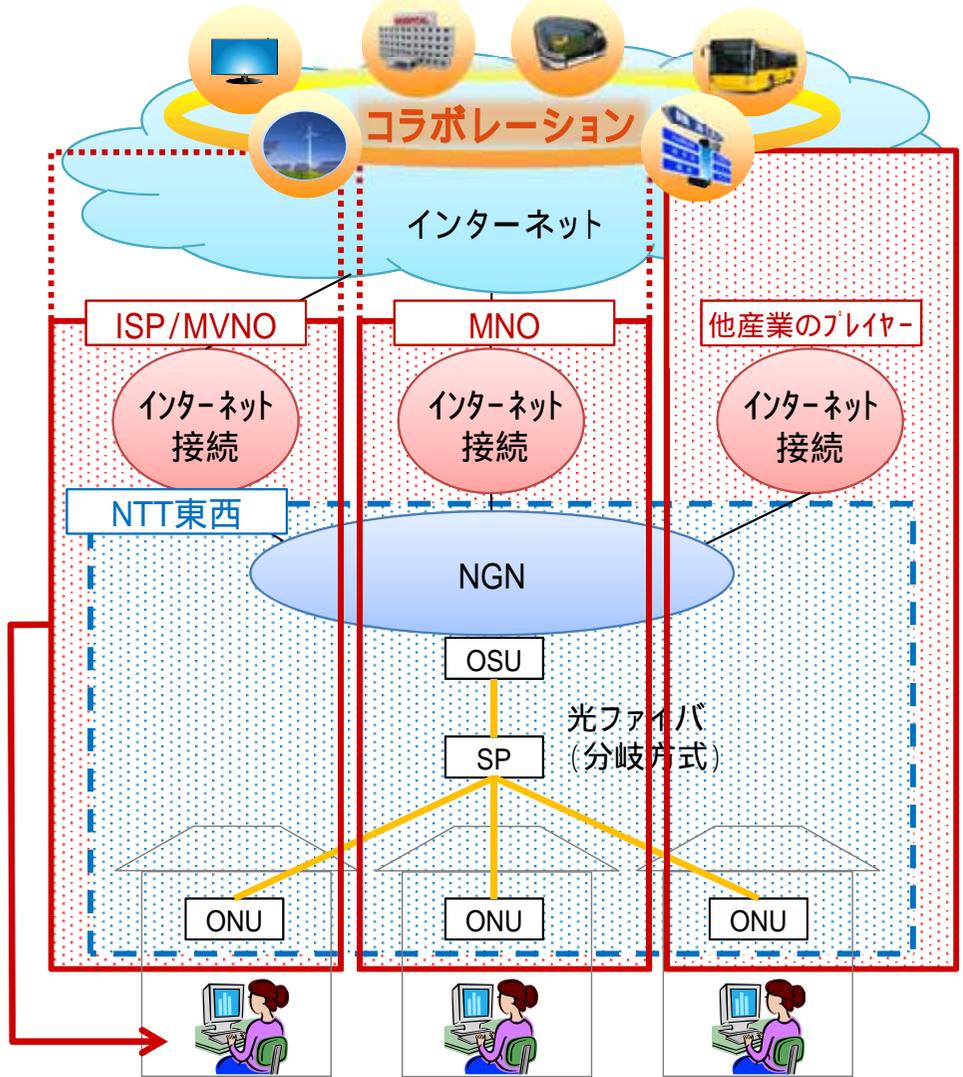
従来のフレッツ光

光コラボレーションモデル  
(フレッツ光のサービス卸)



ISP等とNTT東西が  
エンドユーザに  
それぞれ提供

OSU: Optical Subscriber Unit (光回線終端装置と  
対向して光信号を伝送する装置(パッケージ))  
ONU: Optical Network Unit (光回線終端装置)  
SP: Splitter (局外分岐装置)



多様なプレイヤーが  
自社サービスとフレッツ光を  
組み合わせてエンドユーザに提供